HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	石井吉春教授を送る
Author(s)	宮脇, 淳
Citation	年報 公共政策学, 13, 21-22
Issue Date	2019
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74415
Type	other
File Information	13-03_Tokusyu_Miyawaki.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

石井吉春教授を送る

宮脇　淳*

石井吉春教授が2018年度末をもって、本学を退職されることになりました。2005年4月に北海道大学公共政策大学院の設立と同時に着任以来、日本経済、地域政策、官民連携等に関する実務家教員として教鞭をとられ、学生指導はもちろんのこと地域貢献等を通じて、本大学院が理念のひとつとする「理論と実務の架橋」に尽力されました。とくに、地域と大学を結び付ける貴重な教員として、北海道の地方自治体や民間企業からも高い信頼を得て活躍されました。その結果として築いていただいた地域と大学間のネットワークは、本大学院にとっても将来にわたり比類なき資源となることを確信しております。近年では、新千歳空港コンセッション化等の議論にも参加され、新たな地域政策や事業戦略にも関わることで、地域の公共政策に関する先駆的役割を果たしてこられました。

さらに、2015年4月から2年間、公共政策大学院の院長も務められ、大学を取り囲む環境が大きく変化する中で、大学院の充実に向けて組織的に責任ある立場として、学内外の大学行財政にも尽力されました。今日の公共政策大学院の礎を築き、その充実に欠くことのできない教員として活躍されてきたことに深くお礼申し上げます。

石井先生は、政策金融機関である北海道東北開発公庫、そして日本政策投資銀行の要職を経て本学に着任されています。こうした経歴をもつ石井先生が本学に着任された2005年より遡ること10年以上前の1990年代から、私は石井先生にご指導を受けてきました。その範囲は、政府における財政投融資・政策金融の改革、さらには、苫小牧東部開発、第三セクター経営等広範な領域に及びます。90年代に本格化した財政投融資・政策金融等の議論では、石井先生と立場を異にしながらも、様々な知識や視点を与えていただきました。石井先生は、地域や企業の経営等にも造詣が深く、その指摘は厳しくクールな中に簡潔なメッセージが込められており、私自身、多くの気づきを学ばせていただきました。

政策金融機関にとって不可欠な存在であった石井先生が、本学公共政策大学院への着任を英断していただいた時のことは、今日においても無類の喜びとして鮮明に記憶しております。石井先生を実務家教員としてお迎えし、ともに公共政策大学院で仕事が出来たことは、北海道大学公共政策大学院、そしてその構成員にとって限りなく幸せなことでした。着任から約15年間が経過し、今、石井先生の退職に向けた送る言葉

*　北海道大学公共政策大学院教授

を綴ることは私にとってはもちろんのこと、本大学院にとって寂しい限りでありますが、石井先生の築かれたネットワークや様々な資源を絶やすことなく、次に繋げるため構成員全員で努力してまいります。石井先生もお体をご自愛の上、益々、北海道の次の時代に向けて活躍されることを願っております。今後ともご指導いただくことをお願いし、送別の文章を閉じさせていただきます。